

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

全学年の前年度偏差値を、各教科で1ポイント以上上げる。

3. 指標にむけての取組

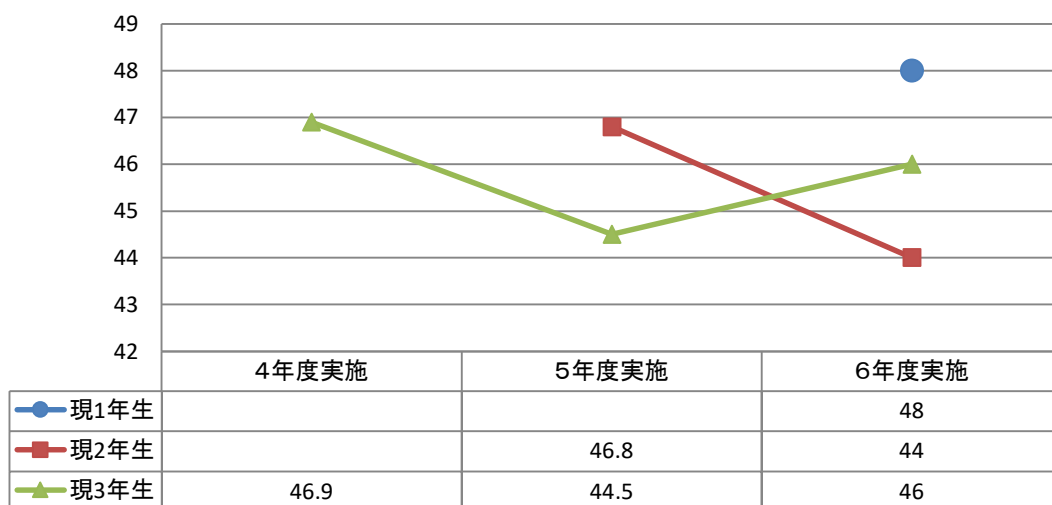
定期考査前後のチャレンジタイム・フォローアップタイムの実施
朝学習および定期考査前の放課後学習における補充学習の実施
授業や総合的な学習の時間、特別活動等で振り返りの時間の確保

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
本校(A)	48.7	45.7	45.7	45.6	46
嘉麻市(B)	48.6	47.1	46.0	45.5	45.8
(A)－(B)	0.1	－1.4	－0.3	0.1	0.2
標準偏差値との差 (A)－(50)	－1.3	－4.3	－4.3	－4.4	－4

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・9年生は昨年度からの基礎基本の定着の取組が結果に出ているが、教科間の差がある。
- ・8年生は国語以外の教科の基礎基本の定着が不十分である。
- ・7年生は全教科において6年生までの学力向上の取組が結果に出ているので県平均以上を目指していく。

6. 各学校における今後の取組

- ・9年生においては特に外国語の基礎基本の定着を目指すために、定期考査前のチャレンジタイム、フォローアップタイムの取組や朝学習、学習コンクールで時間をかけて学習を行う。
- ・8年生においては国語以外の教科でチャレンジタイム、フォローアップタイム、朝学習、学習コンクールを行うことにより底上げを目指す。
- ・7年生は国数英の3教科を中心にチャレンジタイム、フォローアップタイム、朝学習、学習コンクールを行うことにより学力の向上を図る。
- ・加配教員等を活用して、習熟度に応じた指導を行い、個に応じた指導の充実を図る。
- ・前期課程と課題の共有を行い、9年間の連携した学力向上の取組を図るために校内研修等を前後期合同で行う。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、年3回(4回)実施する標準学力分析検査ごとに結果を分析し、学力向上の取組を改善していくことを通して、効果的な学力向上の取組を構築していくよう指導する。また、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆単元や学習のまとまりを単位とした短いスパンでの学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推奨する。そのために、単元に小テストや単元テストを位置付け、トリプル80を視点から評価を各学校において確実に実施するとともに、それらをもとに取組の検証改善を図る校内学力検証委員会の充実について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した家庭学習を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。